

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490600135	事業の開始年月日	平成24年4月1日
		指定年月日	平成24年4月1日
法人名	株式会社メディカルケアシステム		
事業所名	グループホームちいさな手陽だまりの丘横浜保土ヶ谷		
所在地	(240-0044) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区仏向町1255-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護		定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和6年1月12日	評価結果 市町村受理日	令和6年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療連携に力を入れており、「一度お預かりしたら最後まで」の方針で看取りケアを行っています。その為、訪問診療の医師や訪問看護の看護師と常に連携し、チームケアを実践しています。入居者様の日々の生活では、お一人お一人のペースや生活スタイル等を考慮し、出来るだけご本人の意見に沿った支援を行っています。食事作りや清掃、洗濯等もできる方にはスタッフと一緒に行って頂き、日々役割を持ち生き生きと過ごして頂いております。また四季折々の行事を企画し、日常のマンネリ化がないよう刺激のある生活を提供しています。また、周年記念祭や夏祭り、クリスマス会など定期的にご家族様もご招待し（コロナ感染予防のため今年度は入居者様のみ）、入居者様とご家族様のつながりが持てる場の提供を行っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年2月16日	評価機関 評価決定日	令和6年5月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR「保土ヶ谷」駅または「東戸塚」駅よりバスに乗り「富士見橋」から徒歩で10分程の所に位置します。事業所の周りは高い建物もない住宅地で、グループホームの名の通り日当たりの良い丘陵地にあります。 <優れている点> 事業所では、「利用者一人ひとりの生活スタイルやペースを大切に」し、「入居前の状況を少しでも継続させたい」との姿勢でケア支援に取り組んでいます。残存機能を存続させるため、食事の用意、部屋の清掃、洗濯物たたみなど入居前に行っていた家事の手伝いを積極的に参加してもらえるように声掛けをしています。伝えたい意見がある利用者には運営推進会議で思いを述べてもらうなど、心身のケアに取り組んでいます。また、運営委員会のメンバーのサポートを積極的に活用しています。区役所職員、地域包括支援センター職員、自治会長、家族などの情報共有や意見を大事にコロナ禍前の活動水準に近づけるように、研修やケアに関する相談、災害など、地域と密着した活動を推進しています。 <工夫点> 利用者の残存機能維持にマッサージが必要であれば、保険適用可能な所を探し、家族へ提案を行っています。また、看取り支援は、担当者一人のものとはせず、事業所全体の取り組みとしています。看取り後は反省会も行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームちいさな手陽だまりの丘横浜保土ヶ谷
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入職時にオリエンテーションで新人ハンドブックを用い、理念の基づき就業するよう説明し、常時玄関に掲げ周知している。	法人で掲げる企業理念、介護理念からなる二つの理念と共に、その理念を基に事業所の目標も掲げています。職員一人ひとりを順番にリーダー役にし、法人の行動指針を伝えるなど、職員の理解を深め、浸透する取り組みを行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しており、地域で行なう防災訓練やお祭りに積極的に参加している。ホーム防災訓練に地域の消防団が参加している。	コロナ禍以前は、地域自治会、地域包括支援センター（仏向ケアプラザ）、区役所などの、運営推進会議メンバーのサポートを得ながら地域密着の交流に取り組んでいました。5類感染症以降、中断していた地域とのつきあいも徐々に復活させつつあります。	5類感染症以降の対応について利用者家族の意見は様々な意見を勘案し、地域と双方向の付き合いに早く戻れることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	散歩などで外に出かけた際は、近隣の方へ積極的に挨拶を行なっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	感染予防の観点から面会制限を行っている為文書にて行っている。散歩などで外に出かけた際は、近隣の方へ積極的に挨拶を行なっている。	昨年の3月以降は、従前の面談による運営推進会議に戻し、実施しています。運営推進会議のメンバーから事業所の支援をもらっています。希望に応じて利用者にも運営推進会議の席にて、ご自分の意見や要望を表す場を設けています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	役所より研修会のお知らせがある時は出来るだけ参加をするようにしている。	区役所の担当部署とは定型的な報告や研修会開催の案内などの連絡以外に、上記の運営委員会の出席を通じて事業所の状況を伝えています。ケアサービスについては、地域包括支援センター（仏向ケアプラザ）とケアや事業所の運営に関する相談など連携を密にとっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止について勉強会やミーティングにて周知している。玄関は離設や事故防止の為施錠しているものの外へ出たい方へはその都度出来るだけ迅速にスタッフ付き添いの下外に出ている。閉じ込めないようにしている。	身体拘束防止に関する指針を定め、定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束の状況把握とその防止対応策に取り組んでいます。転倒防止のため足元にセンサーの設置により転倒ゼロで有効な防止策になっています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についての勉強会を行なっている。また、常に管理者が業務に入り込んでしまわないような体制をとっており、見過ごさない様に注意を払っている。	虐待防止委員会を定期的に開催し、不適切事例の把握とその対応策さらには必要に応じて勉強会を行うなど、虐待防止に取り組んでいます。不適切事例が見られた時は、管理者がその場で、またはフロアーミーティングで指導し、虐待防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度については管理者が自ら学んでいる。必要な方には提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際等、しっかり疑問点等確認し、十分な説明を行なっている為、トラブルになった事例は無し。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議には文書にて意見を募集し、意見を訴える場を設けている。又、意見箱を設置し、いつでも気軽に投稿できるようになっている（面会可能時）。	毎月「近況報告書」と写真を添えた「陽だまり新聞」を利用者家族へ送り、利用者の状況報告をすると共に、意見や要望を聞いています。希望によっては、運営推進会議の参加により意見や要望を伝える機会としています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に1回の面談の他、随時面談をしたり、月に1回のミーティングで反映されている。	年1回個人面談を実施し職員の意見や希望を聞いています。毎月の職場ミーティングでは、意見や提案を出し合い、検討を行っています。職員と目線を合わせ、意見や状況を共有するように心がけています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回キャリアプランシートにて評価を行ない、面談をし個人の意見等を考慮し整備に努めている。代表者は年に数回事業所を訪問し環境状態や職員の状態を確認している。	休暇取得を推奨し、残業ゼロを掲げ、職場環境の風通しの良さに努めています。管理者は「他人から言われて嫌なことはやめよう」との指導方針でハラスメント対策を取り、働きやすい環境整備に取り組んでいます。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	半期ごとの幹部研修や、定期的な接遇研修を受ける機会を設けている。又認知症介護実践者研修や管理者研修等も多くの職員が受け、スキルを上げる様努めている。	職員の職務遂行能力を上げるためスキルや知識の向上を図っています。仕事に取り組む姿勢や人間性を育てるため、管理者が指導役となり年間の研修計画を基に、毎月研修を行っています。さらに、法人主体の階層教育の仕組みがあり4日間の集中研修も実施しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症介護実践者研修や管理者研修等に出来るだけ多くの職員が参加し、ネットワーク作りが出来るように努めており、サービス向上させていく取り組みを行なっている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に実態調査へ伺い、良く傾聴し安心して頂ける様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の相談の際から、入居前の実態調査や契約に至るまでしっかりと聞き出し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	詳しくお話を伺い、実態調査を行い、グループホームに適正であるか否か判断し、必要に応じて他の施設などの介護サービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの築いている人間関係を尊重し、仲間と過ごされる時間やスペースを大切にサポートしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様とご本人様の関係を十分に把握し、配慮しながら、ご家族様と共にご本人様を支えています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	連絡や来客があった場合は、関係等をしっかり確認した上で場の提供に努めている。ご本人様より手紙や電話などの依頼があった時は、即座に対応している。	利用者の要望に合わせ、個々に対応を行っています。外出が絡む場合は、個々の引率対応は難しいため家族対応をお願いし、要望を取り次いでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの人間関係を把握し、サービス担当者会議で共有し合い、ケアプランに盛り込み支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられて退去となった方のご家族様とは、その後も連絡を取り、遠近者の相談にのったりし、良い関係が続いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に入居者様主体のホーム方針として統一している、ケアプランも本人本位のものとなるよう心がけている。	ケアマネジャーが利用者に話を聞き、行動指針を基に、かなえられる希望はできるだけかなえる様に努めて、意向の把握に努めています。利用者より家事業務で皿洗いをする事の希望があり、対応後に喜ぶ利用者の顔を見ることができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前、入居時の面談にてご家族様やご本人様からしっかりと伺いフェイスシートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日しっかり記録へ残し把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族様にもしっかりと意向を伺いご自身の意見が伝えられる方はその内容をしっかりと介護計画に反映している。	運営推進会議に利用者も出席しています。出して貰った意見を職員間で情報共有し、次回の介護計画を作成する時に希望を落とし込んでいます。利用者の行っていた習慣を汲み取り、過去の習慣を呼び起こし一人ひとりの計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に残し、情報共有しながら活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご要望などには出来る限り柔軟な姿勢で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一人ひとりの心身の残存機能が最大限発揮できるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には当ホームの訪問診療医がかかりつけとなっているが、希望により他の病院を受診されている方もいる。情報提供などの支援も積極的に行っている。	訪問診療は2週間に1回、歯科は1週間に1回来訪しています。薬剤師の来訪もあり、薬の相談にも対応しています。他科受診については病院受診としています。事業所には看護師が勤務しているので、医師や職員とも連携して適切な医療を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間のオンコールで密に連絡がとれている。看護師は常に入居者様の身体の状況を把握しており、適切に医師との橋渡しをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様や病院のMSW、NS等へ連絡を取り、情報交換に努めている。いち早くホームへ戻れるよう支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際にもしっかりと説明を行い、ご家族様の意向を伺い、心身の状況が変わるごとに話し合いをしている。	職員は事前に看取り研修を受講しています。家族には看取りの説明を行い、職員は医師や看護師の協力の下で看取りを行っています。看取り後は必ず反省会を開催して、今回のフィードバックにより、事業所全体で支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に勉強会を行い、実践力を付けている。又急変時のマニュアルがあるので全職員で共有し、周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年に2回実施し、内容を全職員で共有し、周知している。	保土ヶ谷区独自の災害マニュアルを使用して、年2回5月と9月に訓練をしています。地域の橘中学防災拠点管理委員会に所属し、緊急時に備えています。備蓄は白米、缶詰め、水を1階に用意して、そのほかに法人でも備蓄品を管理しています。	倉庫に収納している備蓄品の整理整頓、緊急時に速やかに取り出せる工夫が期待されます。備蓄品リストを作成し、掲示することにより、職員への周知も期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入職時に全職員がオリエンテーションにて指導している他、日々の業務の中でも管理者が注意深く見守り、必要に応じて指導・教育をおこなっている。	利用者が一人ひとりのペースで暮らしていけるように、事業所全体で個人情報保護やプライバシー確保に努めています。日々の何気ない言葉遣いなどで気になることがあった場合は、職員と話し合い問題に向き合って解決しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	必ずご本人様に選択して頂けるように提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	思い思いの所でお好きなようにお過ごし頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴前や起床時にご本人様と一緒に好きな洋服を選んで頂いたり、希望に応じて化粧水等もご用意している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	必ず入居者様に参加して頂いている。	食事前の口腔体操で大きな声出しでしっかり行い、誤嚥を防ぎ、食欲増進に繋がっています。ペースト状の食事の提供の際は、多色を並べるように注意して、食欲が出るような工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要に応じて刻み、ミキサー、カロリー制限など対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施している。又週に1回の訪問歯科診療により口腔内の状態を保っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレ中心の介助を実施している。	利用者17名中ほぼすべての人が布パンツを使用しています。日中や夜間を問わず自立でトイレに行くことができています。若干名の利用者は、紙おむつではなく、リハビリパンツを使って職員の付き添い支援で、トイレでの排泄を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便通を把握し、食事量や水分量を管理し予防を行なっている。又出来るだけ毎日散歩にお連れしたり、体操には腹式呼吸やお腹を動かす体操を行なっている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしめず、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員の都合で決めてしまわず。ご本人様に伺いながら行なっている。	入浴時間は午前中となっていますが、希望により午後に入浴をすることもあります。職員は入浴の目的について勉強会で学んでいます。音楽を流して入浴することが多く、風呂レクリエーションを開催して、様々な入浴剤を使用するなど、入浴が楽しめるような工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お手伝い後は必ずお茶をお出しし、休んで頂いている。又ベッドメイキングを常に行い気持ち良くお休みになって頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフ一人一人が理解し、薬の変更になった場合等は記録に記し、各自が把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人に合った役割を見出し、食器拭き、モップ掛け、洗濯物干し等お手伝いをして頂いている。又毎日レクリエーションや散歩を行ない楽しんで頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	雨の日以外はほぼ毎日散歩に出かけている。月のレクリエーションとして、全入居者様をお連れし、貸切バス又は車で出かけております。又地域のお祭り、防災訓練等に参加し、交流を計っている。	出来るだけ利用者が外出することを心掛けています。天候不順や外出できない時には、職員が季節の花を植えている敷地内の中庭を利用しています。そこでは、年間を通して花を楽しめる環境を提供しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当ホームではお金は一切お預かりしておりません。必要な時は立替をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様、ご友人様にお電話やお手紙を頂いた時は、やり取り出来る様に支援している。ご本人からの要望にも応えています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔を保つ様に心がけている。毎月、手作りカレンダー又はカレンダー又はレクリエーションで季節感をとりいれている。	フロアーの中心が共有空間となっていて、日が入り明るく、暖かい雰囲気となっています。華美な飾りつけを控え利用者が不安にならないようにしています。テレビや音楽を聞いたり、トランプや、昭和のスターかるたなどをしている利用者の見守りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにテレビとソファを設置し、くつろげる空間を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様、ご家族様が相談の結果、今までお使いになられていた家具を持って来られている。職員と共に整理整頓をしている。	事業所では、クローゼット、エアコン、カーテン、ベッドを設置しています。入居者は使い慣れた好みの物を用意しています。自宅で使用していた家具や仏具などを持ち込んだり、写真を飾るなど、整理された居心地のよい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	浴室、トイレに手すりをつけ、バリアフリーな設計にしている事で、ご自分で行える事は行って頂けるようサポート出来ている。		

事業所名	グループホームちいさな手陽だまりの丘横浜保土ヶ谷
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入職時にオリエンテーションで新人ハンドブックを用い、理念の基づき就業するよう説明し、常時玄関に掲げ周知している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しており、地域で行なう防災訓練やお祭りに積極的に参加している。ホーム防災訓練に地域の消防団が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	散歩などで外に出かけた際は、近隣の方へ積極的に挨拶を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	感染予防の観点から面会制限を行っている為文書にて行っている。散歩などで外に出かけた際は、近隣の方へ積極的に挨拶を行なっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	役所より研修会のお知らせがある時は出来るだけ参加をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止について勉強会やミーティングにて周知している。玄関は離設や事故防止の為施錠しているものの外へ出たい方へはその都度出来るだけ迅速にスタッフ付き添いの下外に出ている。閉じ込めないようにしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についての勉強会を行なっている。また、常に管理者が業務に入り込んでしまわないような体制をとっており、見過ごさない様に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度については管理者が自ら学んでいる。必要な方には提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際等、しっかり疑問点等確認し、十分な説明を行なっている為、トラブルになった事例は無し。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議には文書にて意見を募集し、意見を訴える場を設けている。又、意見箱を設置し、いつでも気軽に投稿できるようになっている（面会可能時）。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に1回の面談の他、随時面談をしたり、月に1回のミーティングで反映されている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回キャリアプランシートにて評価を行ない、面談をし個人の意見等を考慮し整備に努めている。代表者は年に数回事業所を訪問し環境状態や職員の状態を確認している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	半期ごとの幹部研修や、定期的な接遇研修を受ける機会を設けている。又認知症介護実践者研修や管理者研修等も多く職員が受け、スキルを上げる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症介護実践者研修や管理者研修等に出来るだけ多くの職員が参加し、ネットワーク作りが出来るように努めており、サービス向上させていく取り組みを行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に実態調査へ伺い、良く傾聴し安心して頂ける様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の相談の際から、入居前の実態調査や契約に至るまでしっかりと聞き出し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	詳しくお話を伺い、実態調査を行い、グループホームに適正であるか否か判断し、必要に応じて他の施設などの介護サービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの築いている人間関係を尊重し、仲間と過ごされる時間やスペースを大切にサポートしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様とご本人様の関係を十分に把握し、配慮しながら、ご家族様と共にご本人様を支えています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	連絡や来客があった場合は、関係等をしっかり確認した上で場の提供に努めている。ご本人様より手紙や電話などの依頼があった時は、即座に対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの人間関係を把握し、サービス担当者会議で共有し合い、ケアプランに盛り込み支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられて退去となった方のご家族様とは、その後も連絡を取り、遠近者の相談にのったりし、良い関係が続いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に入居者様主体のホーム方針として統一している、ケアプランも本人本位のものとなるよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前、入居時の面談にてご家族様やご本人様からしっかりと伺いフェイスシートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日しっかり記録へ残し把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族様にもしっかりと意向を伺いご自身の意見が伝えられる方はその内容をしっかりと介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に残し、情報共有しながら活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご要望などには出来る限り柔軟な姿勢で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一人ひとりの心身の残存機能が最大限発揮できるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には当ホームの訪問診療医がかかりつけとなっているが、希望により他の病院を受診されている方もいる。情報提供などの支援も積極的に行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間のオンコールで密に連絡がとれている。看護師は常に入居者様の身体の状態を把握しており、適切に医師との橋渡しをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様や病院のMSW、NS等へ連絡を取り、情報交換に努めている。いち早くホームへ戻れるよう支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際にもしっかりと説明を行い、ご家族様の意向を伺い、心身の状態が変わるごとに話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に勉強会を行い、実践力をつけている。又急変時のマニュアルがあるので全職員で共有し、周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年に2回実施し、内容を全職員で共有し、周知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入職時に全職員がオリエンテーションにて指導している他、日々の業務の中でも管理者が注意深く見守り、必要に応じて指導・教育をおこなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	必ずご本人様に選択して頂けるように提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	思い思いの所でお好きなようにお過ごし頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴前や起床時はご本人様と一緒に好きな洋服を選んで頂いたり、希望に応じて化粧水等もご用意している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	必ず入居者様に参加して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要に応じて刻み、ミキサー、カロリー制限など対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施している。又週に1回の訪問歯科診療により口腔内の状態を保っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレ中心の介助を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便通を把握し、食事量や水分量を管理し予防を行なっている。又出来るだけ毎日散歩にお連れしたり、体操には腹式呼吸やお腹を動かす体操を行なっている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしめず、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員の都合で決めてしまわず。ご本人様に伺いながら行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お手伝い後は必ずお茶をお出しし、休んで頂いている。又ベッドメイキングを常に行い気持ち良くお休みになって頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフ一人一人が理解し、薬の変更になった場合等は記録に記し、各自が把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人に合った役割を見出し、食器拭き、モップ掛け、洗濯物干し等お手伝いをして頂いている。又毎日レクリエーションや散歩を行ない楽しんで頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	雨の日以外はほぼ毎日散歩に出かけている。月のレクリエーションとして、全入居者様をお連れし、貸切バス又は車で出かけております。又地域のお祭り、防災訓練等に参加し、交流を計っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当ホームではお金は一切お預かりしておりません。必要な時は立替をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様、ご友人様にお電話やお手紙を頂いた時は、やり取り出来る様に支援している。ご本人からの要望にも応えています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔を保つ様に心がけている。毎月、手作りカレンダー又はカレンダー又はレクリエーションで季節感をとりいれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにテレビとソファを設置し、くつろげる空間を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様、ご家族様が相談の結果、今までお使いになられていた家具を持って来られている。職員と共に整理整頓をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	浴室、トイレに手すりをつけ、バリアフリーな設計にしている事で、ご自分で行える事は行って頂けるようサポート出来ている。		

2023年度

事業所名 グループホームちいさな手陽だまりの丘横浜保土ヶ谷

作成日： R6年 5月 28日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地域とのつながりがコロナ渦以前の状態に戻っていない。	地域交流に参加する機会をコロナ渦以前の状態に戻す。	運営推進会議で地域交流の情報を得て交流の機会が生まれる様に取り組んでいく。	12ヶ月
2	16	災害時の対応方法を全職員が速やかに対応できるか不安がある。	全職員が災害時の対応方法を把握している。	災害対策委員会を定期的を開催し、備蓄品の保管場所等災害時、全職員が速やかに対応出来る様に共有出来る様にする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月